

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時): 法学部 3年

参加プログラム: 全学交換留学

派遣先大学: 北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) **6.起業** 7.その他()

派遣先大学の概要

北京大学

留学した動機

① 日本の外でなされる政治的な議論への参加経験を持つこと
 ② 滞在先のリーダー予備軍との関係を構築すること
 ③ アカデミックな議論を指揮できるまでの語学力を養うこと
 の3つ。①②は十分に達成されたが、③については、アカデミックな議論に”参加”まではともかく、”指揮”できるレベルには届かなかった点で、後悔が残る。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況: 西暦2014年 法学部3年の夏学期まで履修
 ②留学中の学籍: 留学
 ③留学期間: 2014年9月～2015年1月 法学部3年時に出発
 ④留学後の授業履修: 西暦2015年 法学部4年の夏学期から履修開始
 ⑤就職活動の時期: 西暦2015年 法学部3年の3月頃に行っている
 ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位46単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位12単位
 留学後の取得(予定)単位32単位
 ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦2011年4月入学 西暦2016年3月卒業/修了
 ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: 5年0ヶ月間
 ⑨留学時期を決めた理由:
 留学先で様々のものを見て考えれば、進路に対する考え方も変わる可能性があるかと推測し、そうすると就職活動や院試の前に留学に行っておくことが望ましいと考えたから。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

北京大学の留学生問合せ担当は、基本的に説明不足、または事実でない説明をすることがある(これは中国の習慣のような部分もあるので、善い悪いという評価を下すのも難しい)ので、必ず留学OB/OGに直接アドバイスをする機会を、出来れば複数回持つべきである。あるいは、今私が書いているような内容が他の帰国済み留学生からも合意されるようなものであるなら、これに目を通すだけでも十分かもしれない。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

・ビザの手続きは、東京ならば六本木にある総領事館でできる。あるいは、そこ以外ではできない。
 ・注意点は、平日午前中の9～12時までしか空いていない点である。Webサイト上の申請様式は古いものなので、項目と必要書類だけを確認して現地に出向き、置いてある様式に直接記入するのがよい。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

・中国の場合、年度始めの健康診断だけではすべての検査をカバーできないため、大学内の保健センターにて追加で検査を受ける必要が出てくる。なお、学外でやるとウン万円掛かってしまうが、大学内だと費用はグッと抑えられる。
 ・「外国人体格検査記録」という様式がWeb上でダウンロード出来るので、これを印刷した上でまずは保健センターに「中国へ留学する予定である」と相談するとよい。
 ・検査項目の種類によっては検査結果が出るのに数週間を要するので、出国の1ヶ月以上前には相談に行っておきたい。
 ・保健センターは事前の予約が必要なことに注意。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

・AIU Insurance Company を利用した。北京は寒い時はマイナス 10 度に達する等日本よりも寒いのためか、日本ではすこぶる健康な学生(自分を含む)であっても、わずか半年で 3 回も風邪をひいたりする。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

・法学部の場合、法学部の教務課へ(1)北京大からの入学許可書、(2)400～800 字で留学の目的を書いた文書、(3)各 200～400 字での履修予定科目の概要説明、(4)留学先大学の便覧の類、の提出が求められた。例えば経済学部ではこのようなことが無かったらしく、手続きが多い部類に入る。

・また法学部では、国際本部からの留学許可が降りた後も、独自に学部長との面接を設定される。留学の動機や、留学後の進路、なぜ中国を選んだのか…などを聞かれたように記憶している。ちなみにこの面接で留学を取消になることは実質無いらしい。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

・私はそもそもフランス語選択であり、中国語の基本的な文法・語彙すらも覚束なかったため、基本的に駒場 1 年生の夏学期レベルにも達していなかったと思ってもらえばよい。

・中国語の上達に最適化するならば、留学前に HSK6 級を取得しておき、その上で対外汉语学院の高級三班という最高クラスに配属されるのがよい。本科の学生になってしまうと、むしろ口語の中国語を上達させる機会は減ってしまう。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

・

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

対外汉语学院に所属し、

●漢語十一班(8 単位)

●口語十班(6 単位)

●視听说(4 単位)

の 3 つ、計 18 単位を取得した。

なお現地での履修科目の内容に関わらず、後期教養課程の何らかの講義の単位に換えて申請すれば、必ず変換が認められるらしい。私も上 3 つを後期教養課程の単位に換え、そのまま法学部の他学部聴講分に当てる予定である。

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

・基本的に授業数が多く、また法学部と異なり出席が重要なので、学校には毎日通った。

・小テストや作文の課題も多く、毎日授業後には学内のカフェで課題を終わらせて帰る、というのが日常であった。

・とはいえ課題の量や難易度は、法学部のそれと比べると問題に感じる程度ではない。

・欧米等からの留学生と共に講義を受けるため、発言はかなり活発であった。日本人学生は消極的なことが多いが、よく発現するような日本人学生は相対的に語学の上達が早かったように思う。

③1 学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

・授業は 1 時間ごとであり、1 単位あたり 1 時間なので、1 週計 18 時間授業を受けていた。

・課題や予習は、自分のクラスに関しては毎日 2 時間程度取り組めば容易に終わる分量であった。

・プレゼンテーションの機会が多くあり、パワーポイント資料の作成はもちろん、時にはインタビュー等を必要とするものもあるので、一時的に負担が増大する期間はあった。

④学習・研究面でのアドバイス

・留学生は、事前に HSK6 級に合格しているか、または現地で学期始めに受ける placement test で 100 点以上を越えるかをしない限り、対外汉语学院という語学訓練用の学部(テストの結果によって 10 段階程度のレベル分けがなされる)に配属される。駒場で 1 年半中国語を履修し、上級中国語も受講しているような学生でも、案外 100 点を越えることは難しい。本科(法学部や歴史学部等の普通の学部)の授業を受けなければ、事前に HSK6 級を取っておくことが最も簡単な道である。なお、現地でも HSK を受検する機会はある(ただし現地のほうが若干受験料が高い)。

・対外汉语学院の授業を受けることだけでも、中国人の友達とたくさん交流するだけでも恐らく不十分なので、対外に所属しながらも積極的に中国人学生と遊びに出たり、共に課外活動をする等をする必要がある。

・個人的には、留学前に HSK6 級を取得する等相当度の中国語力をつけておき、敢えて対外汉语学院の最高クラスに高級四に所属し、中国人ばかりの社团(サークルのこと。つまり日中交流会等の日本人/日本語の話せる中国人の多い所以外)に参加する、というのが中国語の早期上達の最適プランだと考える。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

・北京大の寮スタッフや教務課を含め、中国人スタッフは基本的にスタッフ側の都合を再優先に行動し、お客に不利益を被らせることに抵抗がない。きちんと疑問を解消すべく質問をしてみたり、時には粘り強く交渉できるだけの語学力をつけるまでが一つの山で、それまでは損をすることも多かった。この期間は、自分より語学力のある日本人の

知人をうまく頼る等して対応せざるを得ない。

・同じ日本人学生でも中国語の上達スピードには個人差があったが、そこに効きの大きかったのは日本での学習歴以上に、到着後どれだけ中国人と一緒に過ごしたか、であった。私は北京大のオーケストラとバンドサークルのふたつを掛け持ちしたが、おかげでほとんど毎日中国人とかなりのコミュニケーションを取らざるを得なかったため、結果的に本国での学習歴の浅さを補って余りある上達ができたように思う。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

■寮の予約について

全学交換留学校では、学費のみしかプログラム上でカバーされず、寮費が自己負担となる。これに対し、教養学部後期課程のアイコムでは、派遣元大学である東大に学費を納めていれば、現地の寮費も負担する必要がない。ここで生まれる違いは、単なる留学費用の多寡のみならず、「全学交換留学校の学生は自分自身で留学中の住まいを探す/予約する必要がある」点にもある。

それにも関わらず、北京大側の担当者は、こちらの問合せに対し、「寮は用意されている」という程度の説明しかしない。よって、現地に行けば自分の名前で寮の予約がされていると行っていざ行くと、「予約がないので入れない」と閉めだされることになる(反対に、アイコムの学生は何もしなくても寮が用意されている)。

結論的に、全学交換留学校の学生は、事前に直接行きたい寮にメール等で予約連絡を入れる必要がある。なお英語は通じない、あるいは誤解を生む可能性があるため、中国語で連絡を入れることが望ましい。

■どこに宿泊するか

・北京大学留学中の宿は、主に4つある。

- (i) 中関新園 六号楼
- (ii) 中関新園 五号楼
- (iii) 勺園
- (iv) 学外のアパートに賃貸で住む

以下、あくまで2015年1月時点までの情報という留保を付け(というのも結構改修が多い)、補足する。

なお(i)~(iii)共通事項として、宿泊時に保証金3000円を現金で取られる。これは保証金なので帰国時に申し出れば返ってくるが、これも「もうすぐ帰国するから保証金を返してくれ」と事前に申し出ないと、返してくれないことがある。この辺りはそういうものだと割り切って、必ず帰国数週間前には返金の申し出をするように。

(i) 中関新園 六号楼

部屋の設備: 二人一部屋、個人用寝室あり、共同スペースあり、シャワー&トイレ付き

寮設備: 洗濯機あり(2元/回)、奇数階にIHキッチンあり(ただし火力が著しく弱い)、すぐ外にコンビニあり

価格: 100元/日

支払: 保証金3000円、1ヶ月ごとに1ヶ月分を払う

メリット:

- ・大学設備のなかで、料金に対しての設備は最も良い
- ・(事前申請により調整が可能かどうかは不明だが)中国人とルームメイトになれることがある

デメリット:

- ・日本人が圧倒的に多いため、そこに住む人は日本人同士でつるみがちになる
- ・ベッドが固めらしい
- ・中関新園内は基本的に留学生しかいないためか、それ向けて物価が高い
- ・キャンパスと中関新園の間には大きな道路が走っており、歩道橋を渡ってキャンパスに行かねばならず、人によっては遠く感じる

(ii) 中関新園 五号楼 ※アイコム生は特に交渉がなければここに宿泊する

部屋の設備: 二人一部屋、個人用寝室なし(ひと間に二人分のベッド・机があるということ)

寮設備: 洗濯機あり(?元/回)、キッチンあり、外にコンビニあり、共用シャワーが隔階?にある

価格: 80元/日

支払: ?

メリット:

- ・料金は微妙に安い
- ・日本以外の国の留学生もいる

デメリット:

- ・中関新園内は基本的に留学生しかいないためか、それ向けて物価が高い
- ・キャンパスと中関新園の間には大きな道路が走っており、歩道橋を渡ってキャンパスに行かねばならず、人によっては遠く感じる

(iii) 勺園 ※執筆者が宿泊した

部屋の設備: 二人一部屋、個人用寝室なし(ひと間に二人分のベッド・机があるということ)

寮設備: 洗濯機あり(5元/回)、キッチンなし

価格: 100元/日

支払: 保証金3000円、半年分を初日に一括で払う、クレジットカード不可

メリット:

- ・学内の店の多いエリアに隣接しており、価格の安い食堂やコンビニ等へのアクセスがよい
- ・日本人以外の留学生(私はイギリス/中国のハーフ)とルームメイトになる可能性が高い

デメリット:

- ・学内の寮では最も狭い
- ・部屋の鍵が壊れる、トイレが詰まる、シャワーが壊れる、洗濯機が使えなくなる、等のトラブルがまあまあある

(iv)学外のアパートに賃貸で住む

中国語が直接交渉のできる程度に達している、あるいは現地にそのレベルの信頼できる知り合い等がいる場合にとれる手段。自分で不動産会社に直接掛け合うことになる。

メリット:

- ・ハード面では最もよいところに住むことができることが多い
- ・固定費は寮に住む場合よりも安くなることが多い
- ・個人や友人同士で住むことができるため、ホームパーティ等がやりやすい

デメリット:

- ・実際にあった例では、南門から徒歩 1 分～地下鉄のとなり駅まで住むところがバラバラなので、場合によっては大学から遠くなる
- ・ルームシェアの例が多いが、その気になれば一人暮らしもできるため、中国語を使つての交流が億劫になりがちである

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

・PM2.5 の問題はやはり大きく、暖房器具を利用する冬場は排出量も増加傾向にある。マスクは十分量準備していったほうがよいが、現地でも手に入る。

・北大东门のすぐ隣の駅が五道口というが、ここは外国人(特に韓国人)が多かったが、欧米系の学生等と一緒によく飲みに行ったりクラブに行ったりもした。五道口の北川にある火炉火という韓国料理屋は、安いのにとても美味しい。また一心という日本料理屋には、日本料理を食べたがる中国人・欧米人の友人をよく連れて行った。

・私は自転車(安いもので 200 元程度)を購入し、近隣 1~2 駅くらいはそれに乗って行っていった。なお自転車は学内にも売っているが、学内で売っているものは盗品に塗装を施した粗悪品だと噂されるため、北京大北部・圆明園付近の自転車屋で購入するのがよいとされている。私もそこで最安値のものを買ったが、結局 3 ヶ月程度でそれも壊れてしまったけれど。

・食事は学内で、1 食 5~10 元程度で食べられる。朝食に限れば 3 元にも満たない。学外に出ると、物価はだいたい 3 倍程度高くなる。学内の食堂としては农园、艺园、燕南食堂、勺园食堂等がある。個人的には农园 2 階の四川菜が好きだった。

・学内よりは値が張るが、南門、西南門付近には美味しい店が多い。西南門の小吊梨汤(上海料理)と何贤记(広州料理)は特にお勧め。

・学内にはカフェも数件ある。光华管理学系のカフェが綺麗でおすすめで、よくそこで勉強をしていた。

・お金は基本的に中国銀行の口座に預け、必要に応じて学内の ATM を使って降ろしていた。月の出費は、寮費を別にすれば平均 1800 元だった。

・今でもよく分からないのだが、中国では使えるクレジットカードと使えないクレジットカードがある。例えば私は三井住友銀行の VISA カードを持っていたが、同じ VISA でも使えるものと使えないものがあるらしく、“VISA”と表示のある所々の店舗でも、私のカードは使用することが出来なかった(結局イトーヨーカ堂で一度使えたのみだ)。中国で最もよく使える日本のカードは新生銀行のものであり、こちらの作成がお勧めらしい。

・赤坂の中国銀行にてあらかじめ当行のキャッシュカードを作成しておけば、日本からの送金がかかなり簡単になる。同じ中国銀行の口座でも、中国現地で作った口座だと、送金にはいちいち日本側の保護者等が中国銀行に出向く必要があるが、日本側で作っておけば口座番号のみで送金が可能になるらしい。ただしキャッシュカードの作成には概ね 3 週間を要するらしいので、余裕をもって手続きにあたること。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

・スマートフォンや財布の盗難にあった友人はいた。自分は大丈夫だったが、そういうことはある。

・北京语言大学内の病院だと、看護師が日本語を話せるので、中国語に不慣れなうちはそこを使うとよい。

・何らかの保険に加入している場合、現地の病院では 10 回まで無料でマッサージが受けられ、おまけに病院まで来るのに使ったタクシーの領収書を持参すれば、「交通費です」と 100 元が渡される。これを活用すれば最大 1000 元までお金が稼げるので、少しでも節約したい人は活用するとよい。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

航空賃は父親の貯めたマイル(ANA、往復で 2 万マイル)で行ったため、正味の費用は発生していない。

どのくらいの生活水準が欲しいかによるが、家賃は別に月々 1800 元見ておけばよいように思う。それでも週に 2 回ほどは友人とパーに出かけていたし、週 1 は少し豪華なレストランにも行っていた。総じて食費はクオリティの割に安

い。教科書代は、1 学期で合計 200 元程だった。交通費は今は値上がりしているの、私の頃よりも多くかかるだろう。

・留学に要した費用総額とその内訳

学費を除き、4 ヶ月半で 40 万円程度だったと思う。普通ここには航空費が加わるはず。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

受給していない。ただ後で聞けば、所得制限を上回っていても申請すれば通ることもあるらしく、申請するだけしておけばよかったと思う。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

・オーケストラ(中乐学社)とバンドサークル(吉他協会)に所属し、オーケストラでは 3 度、バンドサークルでは 2 度ライブの機会をいただいた。その分忙しく、週末を含めて週 4 程度で練習に励んでいたが、心から充実していたと感じるし、やはりひとつの舞台や作品を作り上げることを通じて、通常よりも早く・深く現地学生と関係を築けたと思う。
・長期休暇は航空券の値段も上がるため、あまり旅行に行こうとも思わなかった。どちらかという授業期間に行くほうがいように思う。ただし国庆节を利用し、4 日間だけ北朝鮮へと旅行した。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

・対外汉语学院ではかなり丁寧に中国語を教えてくれ、プレゼンや作文の機会も多く、フィードバックも充実していたので、学習環境はよかった(ただしクラス先生が誰かにもよる)。
・反対に、生活面でのサポートはかなり雑で、憤りを感じるような待遇も少なくなかった。
・精神面のサポートは、前述のように大学側に期待することが出来なかったため、同じ日本人留学生同士の助け合いによるものが大きかったように思う。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

・外での運動が憚られたため、ジムに通っていた。費用は半年定期で 600 元程度だった。
・図書館は御手洗が不便だったので、あまり利用しなかった。本だけは借り、寮で読んでいた。ただしこちらも保証金 500 円で利用登録が必要(これは保証金なので、帰国前に申し出れば返ってくる)。
・食堂については既出。
・インターネットは、月々 100 元で使い放題だが、無線 LAN ではなく有線のケーブル式である。私はルームメイトが無線ルーターを経由して部屋内に電波を飛ばしていたので、それを利用させてもらっていた。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

中国語が出来るからといって採用に直結したという話は聞かない。留学期間を就職活動に当てられない以外は、デメリットはほとんど無いと思う。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

アジアのどこかの国に飛ばされて「現地の子会社を 3 年たのむ」等と言われても、別にいいか、と思えるようになった。日本の便利な環境へのこだわりが無くなり、どこでも生存できる自信が付いたのは、見方によっては良かった。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

中国で日本企業の現地採用枠を狙う学生もいると聞く。SPI の模試も定期的開催されていた。私はいずれも利用していない。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1. 研究職 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3. 公的機関(機関名:)
4. 非営利団体(団体名又は分野:) 5. 民間企業(企業名又は業界:)
6. 起業(分野: IT、政策シンクタンク) 7. その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

・考える時間は相対的にたくさんあったので、自分が何をしたいのか、ということは明確になった。ただ時間だけあっても考える材料が揃うかは人それぞれである。
・「留学」と偉そうに言ったって、生きる場所が物理的に変わるだけで、死ぬ気で努力をして毎日新しい課題に挑戦すれば実りも多いが、ただ漫然と講義棟と寮の往復に終始することもある。単純な語学上達というメリットを脇におけば、どこで何語をしゃべっていたって、「意義ある生」(一面的であることを承知で言えばだが)の要件は何ひとつ変わらない。日本のグローバル化があまりにも緊急の課題であるという点を踏まえれば、その「単純な語学上達」だけでも十分に意義が大き過ぎるのだが、私よりも遥かに優秀な一般の東大の学生が将来戦っていくようなフィールドを思うと、留学を惰性で過ごすようなことがあれば、到底諸外国との競争には勝ってゆけないだろう、などとも思う。そのくらい中国のトップ学生も、欧米のトップ学生も、努力をしていた。

②留学後の予定

起業準備ということで、縁あって某ベンチャー企業で勉強をさせていただいている。夏頃まではそちらでお役に立ち、そこからの半年超で自分の事業を生み出し、卒業までに投資をいただくまでのプロダクトを作り上げることが目標である。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

- ・中国留学に関する情報を驚くほど出回っていないので、細かいテクニカルな部分は必ず留学 OB/OG に直接聞き、出来る限り不安要素を消していくのが一番だと思う。
- ・私のような、留年もしていて成績も悪く、中国語選択でもないような学生が北京大へ留学する権利を得たのは、単純に留学枠が定員割れであったからに過ぎない。それは、東大の学生はアメリカやヨーロッパ等のより established な環境を好みがちだからだと言ってよいと思う。だが、逆に言えばそれだけ中国留学へと「張る」人は依然少なく、それも知的階層においてはいっそう過小だと考えれば、今からこちらに張っておくことが将来的な人材価値の向上につながることはもちろん、日本の対中外交上の生命線を担うという性格すらも帯びてくるかもしれない。もちろん遠くない将来に中国すらも人口縮小のフェーズを迎えるが、なおも世界市場の大きな割合を占める彼の国について事情通になっておけば、様々なチャンスと呼びこむことができるだろう。
- ・私たちは、余りにも中国人のことを誤解しているし、これからもきっと誤解していこう。ゆえに「中国人を過不足なく知っている」というだけで、価値になる。何より彼らの思考様式や行動原理を紐解いていく過程は、それ自体とても面白い。翻って「日本人は…」と考えるにつけ、身の引き締まる思いもするだろう。そんなきっかけを与えてくれる中国留学、それも中国最高峰たる北京大学への留学を、世界人たろうという気概のある方々に心からお勧めしたい。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。冷静にもっとあってほしい。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時): 公共政策大学院 専門職修士2年

参加プログラム: 全学交換留学 派遣先大学: 中国・北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界: 政府系金融、コンサル、商社) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

北京大学は、清華大学と並ぶ中国でトップの国立大学です。キャンパスは北京市郊外の中関村という、「中国のシリコンバレー」と呼ばれる場所に位置しており、近くには多くの大学や研究所、企業があります。

留学した動機

大学院で東アジアの国際関係や中国政治に関する勉強を進める中で、実際に中国語文献を読みこなせる語学力を付けたいと考えたことがきっかけです。また、私は学部時代には韓国にも留学していたのですが、韓国語だけでなく中国語も身につけることが出来れば、将来仕事で活躍できるフィールドが広がると考えたことも留学の動機です。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 学部/修士/博士[2]年の[夏]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 休学/留学
- ③留学期間: 2015年 9月 ~ 2015年 3月 学部/修士/博士[2]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[2015]年 学部/修士/博士[2]年の[夏]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦[2015]年 学部/修士/博士[2]年の[3~8]月頃に(行った/行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[44]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[0]単位
留学後の取得(予定)単位[12]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2013]年 [4]月入学 西暦[2015]年 [9]月卒業/修了
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [2]年[6]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由: 修士2年の時までは公務員試験の準備があったため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

北京大学の留学生用 HP が開設されるので、そこを通して入学手続きを進める。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

180日の留学ビザ。中国領事館に出向いて申請を行う。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

中日友好医院、またはその他医療機関での健康診断が必要。持病がある人は常備薬を持参したほうが良い。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

生協で勧められた海外留学保険に加入。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学の旨を公共政策大学院事務室に伝え、必要書類を提出。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

留学前の HSK は 5 級。中国に行く前には、合計半年ほどしか中国語を勉強したことがありませんでした。留学前のレベルが高いに超したことはないの、事前に HSK6 級を取得することをおすすめします。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

現地では衛生的に問題のある食べ物もあるので、胃腸薬の持参をおすすめします。また、入寮時に押金(保証金)として 3000 元ほどの現金が必要になるので、日本円は多めに持っていった方がいいと思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

漢語(高級 19 班)、口語(高級 19 班)、高級作文、高級虚詞

※東大で単位申請は行っていません。

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業にまじめに出席していれば、定期テストも問題なく切り抜けられると思います。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

学校の授業週 20 時間、大学近くの語学学校週 6 時間、授業の宿題・予習週 20 時間

④学習・研究面でのアドバイス

学内でよくシンポジウムなどが開催されるため、積極的に参加されることをおすすめします。私も政治学・国際政治が専門のため、北京大学国際関係学院で開かれるシンポジウムなどにはよく参加していました。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

日本から中国語の単語集を持っていくことをおすすめします。また、「留学中に HSK6 級を取得する」など、明確な目標を定めていると、上達も早いと思います。また、大学近くの五道口というところには語学学校も集まっており、私も留学中は大学での授業の他に、語学学校に通っていました。日本人留学生は中級班や高級班に割り当てられることが多く、最初のうちは戸惑いますが、すぐに慣れるので授業が始まったばかりの頃に簡単にクラスのレベルを下げないことをおすすめします。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

北京大学中関新園 6 号楼というところに住んでいました。最初は古い寄宿舎である「勺園」という寄宿舎を割り当てられていましたが、オリエンテーションの日に、北京大学日本人留学生会の方に相談したところ、新しい寄宿舎に住むことができるようになりました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

冬はかなり寒いですが、洋服は十分現地調達可能です。食事は、学内に食堂があり、一食 150 円くらいで済ませられます。お金はクレジットカードの海外キャッシングを利用していました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

学内は窃盗(特に自転車)が多く、他の留学生もかなり被害に遭っていました。また、留学中に喘息が悪化してしまったのですが、北京語言大学の国際医療部に日本人スタッフがいたので、そちらに診てもらっていました。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

寮費(毎月 5 万円ほど)、食費(毎月 2 万円ほど)、交通費(毎月数千円)

・留学に要した費用総額とその内訳

留学中に旅行もしていたので、総額 80~100 万円はかかったと思います。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学全学交換留学奨学金(毎月 5 万円)。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

北京大学中日交流協会、北京大学中韓交流協会に参加していました。休みの際は、中国各地や台湾、東南アジアに旅行していました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

休暇の際に、北京大学の留学生事務室が留学生を対象にした旅行を企画してくれます。他の国から来た留学生と親しくなる良い機会になります。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

生活に必要なものはほぼ全てキャンパス内で入手可能です。大学の施設も交換留学生の身分でも問題なく利用できます。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

省庁や企業から派遣で留学されている方が大勢いたので、今まで考えたことのない業界にも関心が沸きました。また、中国語を生かした仕事がしたいという気持ちが強くなりました。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

上記のように、省庁や企業から派遣で留学されている方が大勢いたので、よく就職活動の相談をしてもらっていました。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職
- 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
- 3.公的機関(機関名:)
- 4.非営利団体(団体名又は分野:)
- 5.民間企業(企業名又は業界:)
- 6.起業(分野:)
- 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学中は自分の頭で考えて積極的に行動することを、日本にいる時以上に求められます。行きたい場所や話を聞いてみたい人がいたら、遠慮なく出向くという習慣を得られたのは、今回の留学の影響が大きいと思います。

②留学後の予定

現在就職活動中で、省庁や政府系金融、商社、コンサルなどを志望しています。2015年9月に大学院修了予定なので、その後また中華圏に留学し、語学力をブラッシュアップしようと思っています。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学中に学んだ中国語は、帰国後も研究や中国人留学生と交流を深める上で役に立ちます。また、さまざまなバックグラウンドを持つ学生と交流できる貴重な機会でもあるので、興味のある方はぜひ参加を考えてみてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

『キクタン中国語』、相原茂『中国語の文法書』、『地球の歩き方・北京』

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: 全学交換留学

派遣先大学: 北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

中国トップといわれる大学。中国語を学ぶために多くの留学生が在籍しており、外国人が中国語を学ぶための機関もあり、HSKという中国語能力試験の最上級に合格することで他の学部の授業に出席できる。

留学した動機

将来、仕事でも関係を持つ可能性が高い中国に興味があったから。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 学部[3]年の[夏]学期まで履修

②留学中の学籍: 留学

③留学期間: 2014年9月～2015年7月 学部[3]年時に出発

④留学後の授業履修: 西暦[2015]年 学部[4]年の[冬]学期から履修開始

⑤就職活動の時期: 西暦[2016]年 学部[4]年の[8]月頃に(行う予定)

⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[]単位
留学後の取得(予定)単位[]単位

⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2012]年 [4]月入学 西暦[2017]年 [3]月卒業/修了

⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [5]年 []ヶ月間

⑨留学時期を決めた理由:

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

煩雑であるため、北京大学の留学生オフィスに直接連絡したり、先輩にアドバイスを求めること。中国語能力の資格など準備に時間がかかるものもあるので、早目に準備を進める方がよい。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

東京においては、六本木にある中国大使館に行き、発行する。1年の留学ではX1ビザを求められた。手続きには1週間程度かかる。これも早目に準備を進めるのがよい。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

入学手続きの際に、健康診断書が必要であるが、北京大学が健康診断の手配をしてくれる、日本で行うより、安く済む。ただし、診断は非常に雑で、入学手続きのためには問題ないが、健康診断としてはあまり意味がない。予防接種は行っていない。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大教養学部説明にきた OSSMA に加入した。どこの保険会社も年10万円は超えてくるので、注意。キャッシュレスサービスがあるものに加入するのが便利。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

所定の留学手続きの他に、所属している教養学部学際科学地理空間コースは夏休みにフィールドワークを行うこと、その後、その報告書をまとめることが必須であるが、留学期間と重なっていた、そのため、指導教官と事前に相談し、フィールドワークの時期を早めてもらうなどサポートを受けることができた。留学決定する前から教官との相談をしておくといよい。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

中国で基本的に英語は通用しないので、日常会話レベルの中国語能力はつけておきたい。中国語を学ぶ機関には多くの国から留学生が来ており、特に中国語レベルが低ければ、コミュニケーションのために英語は話せた方がよい。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

中国語の単語集。中国語や英語で中国語を勉強するのもいいが、特に単語など微妙なニュアンスの理解が求められる。

るので、日本語で書かれた参考書を持参することをすすめる。出発前に HSK6 級をとっておくと、自分の好きなように授業を受講できる。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

- 漢語
- 口語
- 上級作文
- 上級新聞
- 中日関係史
- 日本歴史
- 人文地理学研究方法
- 経済地理学

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

スタイルは日本の大学と変わらない。中日関係史の授業でセンシティブな問題を中国人の学生と議論したことが印象に残っている。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

一学期目は4科目、20単位、二学期目は4科目、10単位。授業時間は一単位につき、50分。

④学習・研究面でのアドバイス

日本とあまり変わらないので、特に心配はいらない。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

学校で習う中国語とは異なる方言で授業される先生もいらっしゃるなので、話がとても聞き取りにくい場合がある。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

基本的に北京大学の留学生用の寮に入ることになる。中国人学生とは建物は別。コンタクトパーソンに寮の予約を確認することをすすめる。私の部屋は一つの部屋に二人住むタイプ、他にも一人一部屋もらえるタイプもある。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

北京は大陸性の気候で、乾燥気味で日較差、年較差ともに大きい。空気は特に冬は汚いが、夏は基本的にきれいである。大学は都会にあるし、地下鉄も発達しており、便利である。食堂は中国料理が基本だが、洋食を出すカフェレストランもある。中国銀行の口座を開設し、日本から送金してもらった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は良好、北京大学近くの北京語言大学には日本語ができるスタッフ常駐の病院もある。日本と気候はもちろん、生活で異なる点も多く、衛生面でもストレスを感じる人が多く、疲れがたまりやすい環境であると思う。無理しないように気を付けた。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

・留学に要した費用総額とその内訳

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO。月6万円。東大のGOGLOBALのページで見つけ、告知もメールで交換留学候補生には送ってもらえた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

テニス協会、スカッシュ協会に入ったり、日本人留学生の勉強会(和僑塾)、日中交流団体(freebird)で活動した。長期休暇には中国の諸都市に旅行に行ったり、中国人の友達の家に泊めてもらったりした。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

いくつかランゲージパートナーの制度がある。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館、食堂等施設は充実している。特にスポーツ施設が充実している。ほとんどの建物でwifiが使える。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)

6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

外国に住んだことがなかったので、それだけでも「常識」を見つめなおす機会になっておもしろかった。

②留学後の予定

冬学期に復学予定。一年留年する予定。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学に行っても得られる成果とかもちろんあるし、重要だと思う。ただ、なんとなくでも「行きたい」と思うのであれば、若いうちに行ってみるのがいいと思う。損得にしばられず、行けるなら行ってみてもいいのではないかな。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

Go global のウェブサイト。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。